

化学テロ対応

はじめに

1. 初動

2. 現場レイアウト

3. 対応

まとめ

目次

はじめに

1. 初動

2. 現場レイアウト

3. 対応

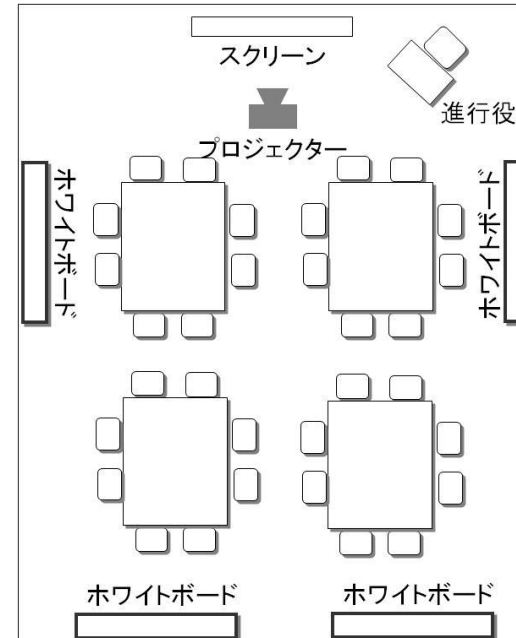
まとめ

参加機関の例と会場イメージ

参加機関の例

- ・自衛隊
- ・警察
- ・消防
- ・市
- ・主要医療機関
- ・施設管理者
- ・交通機関
- ・近隣地区協議会

会場イメージ



基本的な考え方と被害想定

基本的な考え方

- DIG (Disaster Imagination Game: ディグ) のノウハウを用いてテロ発生時の関係機関の初動対応について、お互いの動きをイメージし、相互理解に基づく相互補完の意識を深めることを目的とする。
- 相互の連携を具体的に検討するにあたり、訓練参加機関・団体の長所は活かし、短所は補いあえるよう、各機関・団体の態勢・行動などを討議し、**あるべき姿を探求する**。

被害想定

- 今回の訓練参加機関・団体の相互理解が、浅い段階にあると想定し、今回の被害設定は、なるべく単純なものとした。
- 被害想定をイメージしやすい過去の事例として地下鉄サリン事件を取り上げた。同事件での霞ヶ関駅の状況が地下鉄駅を伴う地下街で発生したらどうするかという被害想定であれば議論しやすい。

現場付近の様子

駅とホームの状況



付近の道路状況



検討内容

STEP1 (覚知～初動体制構築)

●関係機関はそれぞれに

- ①いつ、どのような手段で覚知し、
 - ②いつ、先遣隊(人数・装備)が現着し
 - ③いつ、どのような初動体制(人数・装備)を構築するか
- をお互いに理解する。

STEP2 (1時間後の現場イメージ)

●発生から1時間後、関係機関の連携が理想的に行くならば、現場付近のレイアウトはどのようになっているかの共通理解を得る。

例) 合同指揮所、除染所、応急救護所の設置場所、傷病者動線、立ち入り禁止区域等のゾーニング(※)等

STEP3 (傷病者への対応～病院への収容)

●傷病者を病院に搬送するまでを初動対応として、受入病院間の負荷の平準化を意識させつつ、分散収容させるまでの流れについて共通の理解を得る。

ポイント

●お互いの「手持ちカード」への共通認識

- ・誰に何を頼めばよいのか、その場合、何分(何時間)くらいで、どれくらいの人数・装備品数が確保可能なのか、それをお互いが解るだけでも、大変大きな財産となる。

●運命共同体として、相互補完の意識の醸成

- ・単独の機関で対応できる範囲は、あえて「危機」や「災害」と呼ばない。

- ・「危機」への対応は、他の機関との連携があって初めて可能になるということに気づく。

目 次

はじめに

1. 初動

2. 現場レイアウト

3. 対応

まとめ

状況設定

20××年1月22日(月)朝9時・・・

●地下街で人が倒れ始めたとの第一報

- ・第一報時点では、「事故なのか」「テロなのか」についての確定情報はない。
- ・確定情報はないが、「閉鎖空間で、原因に心当たりがない中で人が倒れ始めた」という状況からして、テロの可能性有りと想定して対応を取るべき。

ステップ1

●9:00

- ・ほぼ同時に、110番通報、119番通報で「地下街インフォメーションカウンターの周辺で、多くの人々が倒れ、苦しんでいる」との情報が入った。
- ・地下街管理事務所等にも、同様の通報有り。

●9:05

- ・テレビ各局にテロップが流れ、特番モードに移行しつつある。

STEP1 (覚知～初動体制構築)

●関係機関はそれぞれに

- ①いつ、どのような手段で覚知し、
 - ②いつ、先遣隊(人数・装備)が現着し
 - ③いつ、どのような初動体制(人数・装備)を構築するか
- をお互いに理解する。

ステップ1

	覚知		先遣隊			初動体制		
	時刻	方法	現着時	要員数	装備	時刻	体制	装備
消防
警察
自衛隊
市
医療
施設
交通
地区
...						
...

そのほか気になることは(自由意見)

例

- 地下鉄は一旦全線を止める形となる。
- 陸自は派遣要請の前にどこまでの対応が可能かを考えた場合、連絡幹部を市に派遣したり、現場に偵察要員を出す。
- 消防や警察で比較的早期に到着する部隊は、不特定多数の滞留者をどこに誘導するかを検討する必要があるが・・・
 - ・それは厳しいとすると、滞留者のコントロールはどうするか？
 - ・避難誘導は、地下街管理者が自ら行うのか。
 - ・市民、民間企業等が自律的に動けるであろうか？
- 付近の店舗は臨時休業するだろうが、どのような情報であればその判断は可能か？
- 発生から1時間くらいは、大混乱のうちに、それぞれの機関での対応が行われるであろう。
- 医療機関は勝手に動けない。
 - ・地震災害とは異なる。準備はするが待機することになる。

目次

はじめに

1. 初動

2. 現場レイアウト

3. 対応

まとめ

状況設定

STEP2 (1時間後の現場イメージ)

●発生から1時間後、関係機関の連携が理想的に行くならば、現場付近のレイアウトはどのようになっているか図示する。

- ・車両集結場所
- ・合同指揮所
- ・除染所
- ・応急救護所
- ・傷病者動線
- ・ゾーニング
- ・立ち入り禁止区域等



ステップ2

検討事項の例

- 各車両の集結場所・配置をどうするか？
- 合同指揮所(合同現場本部)を設置するとすれば、その場所と構成要員は？
- 除染所は設置する？設置するとすれば除染方法は乾式、湿式のいずれとするか？
- 応急救護所を設置するとすればどこに設置するか？
- 救急車両の動線は(周辺医療機関まで)は？
- 多数の軽傷者を逃すとすれば、どこに逃がすか。
- 地下街をホットゾーンとするならば、ウォームゾーン(≡交通規制をかける範囲)はどこまでとするか？
- どこで交通規制を行うか？

なお、気象条件は

快晴, 気温8度, 北西の風2m



ステップ2

各グループの検討の例

- 北西の風2mであるため、各隊の集結は北側とする。
- 消防、警察、DMAT等医療機関、自衛隊など集結時間が異なる。
 - ・消防は、まず倒れている人を救出することとなる。
 - ・警察は、交通規制を行うと共に、犯罪捜査も必要となる。
 - ・自衛隊は、地下街全域の除染することとなる。
 - ・地下街はポイントでシャッターを閉めることが可能であり、拡散を防ぐために空調を止めることも可能である。
 - ・除染所は近隣のビルの1階に設ける。
 - ・応急救護所は近隣の公園に設ける。
- 地下街はホットゾーンとし、ウォームゾーンは地上からの出入口周辺とする。
 - ・立入り禁止区域は狭くした。
 - ・交通規制はもう少し広くとった。



目 次

はじめに

1. 初動

2. 現場レイアウト

3. 対応

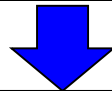
まとめ

状況設定

STEP3 (傷病者への対応～病院への収容)

●傷病者を病院に搬送するまでを初動対応として、受入れ病院間の負荷の平準化を意識させつつ、分散収容させるまでの流れについて共通の理解を得る。

赤: 重篤な傷病者(意識なし).....	30名
黄: 独歩できず(意識あり).....	70名
緑: 多少放置できる軽傷者.....	多数
その他の市民.....	多数



3桁の傷病者をどのように処置していくのか

(1) 手順の検討

突入・救出～〇〇～〇〇～〇〇～医療機関への収容

(2) 投入可能な資源の検討

各段階で各機関が投入可能な資源または対応可能量

※おおまかな流れと対応力の理解

ステップ3

対応	救出	搬送	収容
消防	
警察	
自衛隊			
市				
医療	
施設	
交通			
地区	
...						
...	

目次

はじめに

1. 初動

2. 現場レイアウト

3. 対応

まとめ

まとめ

◆各機関を代表しておひとり

- ・本日の感想
- ・他機関へのラブコール

例：今度、こんなことを一緒にしましょう